

Z会進学教室 葛西通信 10月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室スタッフの声をお届けします。

「人格の完成を目指して」

教務スタッフ 松林陽子

こんにちは。三度の飯より四度の飯が好きな松林です。ちょうど今年の今頃、ネタがなさ過ぎて秋の美味しいものについてそこはかとなく書きつくす回をお送りした記憶があるのですが、今年は珍しくちょっとだけ真面目っぽいことを書いてみようかと思っています。



葛西通信の読者のメイン層は、高校受験or大学受験に向けて日々お勉強をしている中学生・高校生かと思っています。毎日学校で義務教育を受け、放課後は「最高の教育で、未来をひらく。」を理念として掲げているZ会で授業を受けたり、自習をしたり…みんな頑張っていますね。塾に通っていなかった田舎者の私は、密かに畏敬の念を抱いています。都会の中高生、すげー。

学校でも塾でも「教育」を受けているみなさんに、ここで一つ質問です。
「あなたは、何を目的に教育を受けていますか？」

Z会にお通いの生徒さんであれば、大多数の答えは「志望校に合格するため」となるでしょうか。まだ受験生でない学年の生徒さんであれば、「学校のテストでいい成績を取るため」というのもありそうです。もしかしたら、「いい高校に入って、いい大学に入って、いい会社に入るため」なんていう意識高い系の方もいらっしゃるかもしれませんね。

【教育の目的】

では、みなさんに「教育を受けること」を義務として課している日本という国家は教育の目的についてどう考えているのかを見てみましょう。日本における「教育」についての基本的な考え方や原則を定めた、教育基本法を参照してみます。教育界における憲法のような位置づけの法律です。

(教育の目的)

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

かなり抽象的なこの条文についてきちんと解説するには、一語一語をはっきりと定義して分析・解釈しなければならないのですが、この記事では「人格の完成を目指し」という部分に着目したいと思います。みなさんが受けている教育の目指すところは、「人格の完成」なのです。崇高ですね～。

【人格の完成】

「へえ～人格の完成ね～、はいはい」とはならないと思いますので、まずは「人格の完成」とはいったい何なのかを考えてみましょう。「人格」を辞書で引いてみます。以下、『精選版 日本国語大辞典』からの引用です(一部抜粋)。

じん-かく【人格】

『名詞』([英語] personality の訳語)

- ① 人の性格。人の品格。人柄。人品。品性。人間性。パーソナリティ。
 - ② 複雑な精神現象を統一する力動的な構造をもった個体のあり方。心理学で、行動の主体。パーソナリティ。「三重人格」
 - ③ 自由意志の自覚があつて道徳上の責任を受けることのできる資格のある個体。倫理学で、道徳的行為の主体としての個人。
 - ④ 法律で、権利、義務の主体となることができる資格。権利能力。
-

思った以上にいろんな意味がありました。②③はそれぞれ心理学、倫理学の領域における用語ですね。④は一見なじみのない用法かもしれませんが法学ではよく出てくる言葉で、「法人格」という使い方があったりします。そして、教育基本法がいう「人格」は、①のことを指すと考えるのが妥当でしょう。「人格者」という言葉もありますから、人の性格の中でも優れているもの、というニュアンスも感じ取れます。

それを「完成」させるのが教育の目的だ、ということになりますが、個人的にはこちらを定義する方が難しいなと感じています。そんなもん死ぬまで変化し続けるだろ、という気持ちです。では人生の最期の瞬間が「人格の完成」なのかと言えば(もちろんそういう方もいらっしゃるでしょうが)、意識があるままその瞬間を迎えるとも限らないし、一概にそうも言えない気がします。人の性格は、環境や経験によって変化するものでもありつつ、ある程度年を重ねてからはそう大きくは変わらないものでもあるように思います。きちんと定義できなくて申し訳ないですが、ふわっとした感じで次に進みます。

【私にとっての「人格の完成」】

ここからは自分語りです。よろしければお付き合いください。だいた端折ってこの長さ。

もちろんまだ自分の人格が完成しているとは思っていないのですが、少なくとも今日時点での「私の人格」が形成されるまでにはフェーズが3つくらいありました。

-
- ①インプットばかりで頭でっかちだった高校生まで
 - ②アウトプットを通して「自分の言葉」を獲得した大学時代
 - ③メンタルがぶっこわれたせいで考えざるを得なかった「どう生きていきたいか」
-

①インプットばかりで頭でっかちだった高校生まで

物心ついたときからいわゆる活字中毒だったため、自由に使える時間はひたすら本を読んでいたし、自由に使えない時間(例：学校の授業中)でも隙あらば本を読もうとしていた時代です。小学生だった時の臨海学校か何かでは本を持ち込めず、部屋にあった空調設備の取扱説明書を読み始めて周囲にドン引きされた記憶があります。学年が上がるにつれて部活や勉強が忙しくなり、だんだん本は読めなくなっていました。それでも勉強を軸に生活が回っていたので、ただひたすらインプットをしていた時代だったなあと、今は思っています。

インプットばかりをしているとどうなるかというと、大変頭でっかちになります。議論をする時、作文を書く時、知識はそれなりにあるのでもあまあしゃべれるし書けるのですが、「自分の意見」というよりは「他人の受け売り」になってしまうのです。一見強そうに見えて、中身は意外と弱いといったところでしょうか。

とはいえ、今の私が持っている知識、とりわけ語彙の9割はこの時代に獲得したものなので、この時代をネガティブに捉えているわけでもありません。物事を考える能力は自分が持つ語彙以上に発展することはないと思っているので、そういう意味ではこの時代も私の人格を形作る一部なのです。

②アウトプットを通して「自分の言葉」を獲得した大学時代

今現在の自分の人格の大枠ができあがったのは、まぎれもなく大学時代です。親元を離れて東京に出て、同じように全国から、いや全世界から集まった面白い人たちに会ったこと、やりたかった勉強ができる環境に身を置けたこと、全てが今の人格に影響を与えていますが、中でも大きかったのは部活です。

中高と部活にろくな記憶がない(中学校ではソフトテニス部に入っていたような気がするがトラウマ過ぎて記憶から抹消した、高校では華道部≒帰宅部だった)ので、大学では何か打ち込めるものを見つけないかと意気込んで和太鼓部に入りましたが、これがまあとんでもない部活でした。大学の課外活動なんて、よっぽどの体育会系でもない限りゆるーいサークルでのんびり楽しむ人が圧倒的大多数なのですが、「冠婚葬祭以外で練習休むの禁止」「卒業するまで引退しない(なんなら卒業しても引退しない←!?)」というガチ中のガチ部活。弊学の三大ブラック部活に数えられているそうです、知らんけど。

ガチとはいえ、上下関係はゆるゆるで敬語はむしろ禁止、練習中は笑いが絶えない楽しい部活ではあるのですが、4年生が3月に打つ卒業公演は観客動員数1000人越え・動くお金は100万超えという、真剣に向き合わないとは到底達成できないものなので、それなりの本気度が求められます。特に指導者をお招きしているわけでもなく、楽曲や演奏の技術は先輩から後輩に受け継がれていくので、学年が上がるにつれて各自の演奏力はもちろん指導力も必要になります。上級生は、部活動を円滑に進めるためのマネジメントもしています。パフォーマンスのための身体的なアウトプットと、人に伝えるための言語的なアウトプット。かなり鍛えられました。真剣であるが故に、当然負の感情が生まれることもあります。それさえも糧になって、あまり自我がない中高時代を過ごした私なのに、4年生になって卒業公演を企画するころには、太鼓を通して表現したいことがおのずと溢れて出てくるまでになったのです。徹底的に身体に負荷をかける経験と、組織の一員としてコミュニケーションをとりながらプロジェクトを進めていく経験のおかげで、他人の言葉の受け売りでしか話せなかった私は「自分の言葉」を手に入れたのでした。

③メンタルがぶっこわれたせいで考えざるを得なかった「どう生きていきたいか」

上記の通りとてつもなく充実した大学生活を送った後、私は新卒で就職したところを1年足らずで辞め、2社目も同じくらいで退職するに至りました。メンタルをやられたためです。その後「私は労働法を勉強する必要がある」と考えて別の大学の法学部に編入した、と言ったら事情を御推察いただけることでしょう。2周目の大学生活、半分はコロナのせいでオンライ

ン授業になってしまいました。学びたいものは学べて新しい人間関係もできて結構楽しかった。社会に出て潰れてしまった自分にとって、大学に戻ることは社会からのエスケープでありリハビリ期間のようなものでもあったのですが、2度目の卒業が近づくにつれて「私はこの世の中でどうやって生きていけるか」を考えるようになりました。そして、出した結論は以下のようなものでした。

(1)(仕事として)やりたいことは特にない→やりたくないことをやらない、でいい

基本的には「何もしなくていい日が一番幸せ」「許されるなら一日中でも寝ていたい」と思っているぐーたら人間なので、仕事を探すにあたって「やりたいこと」を軸に考えると「ないっすね」という結論に至るのですが、これではお金が稼げないので何かしらやらないといけません。2社で働いてみた経験から「自分、ストレスに激弱」ということはわかっていたので、ストレスを避けるために「やりたくないことをやらないで済む仕事」にしようと決めました。

(2)正直ビジネスには興味がないが、ピュアなもののために頑張るのは負担ではない

あ、もちろんお金は欲しいです！もらえるものはもらえるだけもらいます！！こんななんぼあってもええですからねー！！

…しかし一方でお金儲けに興味がないことは事実であり、面白そうなことは採算を度外視してもやりたい一方でどんなに儲かると言われても興味がないことにはリソースを割きたくない、というタイプなので「営業！成績！ノルマ！」みたいな環境では頑張れない(むしろドン引きする)というのがこれまでに形成された私の人格です。実に資本主義社会に向いていません。でも、お金じゃないことのためなら頑張れることは和太鼓に打ち込んだ4年間(+α)が証明してくれています。

(3)推しごとの邪魔をするものは万死に値する

急に話題変わった!?と思われる方もいらっしゃるでしょうが、音楽が好きなただの変人である私にとっては「推しの現場に行く」ことが人生における最大かつ至上の使命ですので、これを邪魔する仕事に就くわけにはいきません。ライブ行くために仕事してるのに、仕事のせいでライブに行けないなんてそんなことあってなるものか(どうやらかつてあったらしいという噂)。というわけで、スケジュール調整に柔軟にご対応いただける会社様でないとは気持ちよく働くことはできない、と方針が決まりました。

この3つの軸を持って3度目の就職活動を行った結果、運良くZ会葛西教室にたどり着いて今の私があります。せっかく法学部を出たからと法律事務所を受けたりしましたが、法律事務所のお仕事は「紛争解決」なので時にやりたくないことが発生するだろうと思って辞退したりもしました。ビジネスのためには頑張れなくても、夢に向かって頑張る生徒さんを応援することならできるかなと思ってここに決めましたが、前職前々職で1年もたなかった私が葛西教室に来てもう4年になります。

…私の人格形成の話をしていたんでした、大きく逸れてしまいました。

①のインプットを土台に②でおおよそ完成した私の人格は、③で若干揺らいで傷がついたものの②がかなり強固だったおかげで大破することなく今に至っている、という感触です。今の私のものの感じ方、考え方は1回目の大学時代に作られたものであると言って間違いなく、それが③を経てちょっと気楽に生きられるようになった(そこまで模範的でなくていい、責任感がありすぎるのもよくない、エスケープすることを自分に許す)、というのが、今の私が語れる人格形成のすべてです。

自分語りはこのへんにしておいて、今度はみなさんが通う「塾」での教育が人格の完成にどう関与するかについて考えてみます。教育基本法は、(私立学校も含め)公教育について定めた法律ですので、塾や予備校といった教育機関については言及していません。一方、教育基本法の射程のど真ん中にある学校という教育機関では、教科の勉強以外にも様々な行事があったり、担任の先生が学習面以外でも生徒の成長を見守ってくれていたりしますよね。人格の完成に寄与しているであろう場面がたくさん思い浮かびます。私が自分自身の人格形成のメインステージとして挙げた「大学の部活」も、学校教育の一環であると言えます。では、塾はみなさんの人格の完成に貢献できないのでしょうか。

ドライな言い方をすれば、塾の教育の「目的」は、人格を完成させることではなくみなさんを第一志望校に合格させることです。ですから、なんか精神的に成長できそうなイベントもありませんし、クラスみんなで協力して何か一つのことを成し遂げることもありません。みんなそういうことは学校でやった上で、第一志望に行くためには学校の勉強だけでは足りないから塾に来ているのだと思います。そして多くの塾は、入試で効率よく得点するにはどうすればいいかを生徒に教えることを商売としています。需要と供給が一致していますね。人格の完成を目指す教育は学校の役割であり、塾にはまた別の役割がある、というのが一般的な考え方だと言えるでしょう。

しかし、私は以下2点の理由からこの理屈に反論したいと思います。

1つは、受験勉強も人格を形成する一部になりうるということ。もう1つは、Z会の教室が目指すところは「『自ら考え、解決し、表現できる力』を養う」ことであるという点です。

まず1点目。塾でする勉強の目的は入試を突破することにあり、入試の多くは個々人の人間性を問うものではなく画一的な試験でいかに点が取れるかを見るものですから、当然塾での授業は「あなたの個性なんて出さなくていいから、こういう解答をしようね」というものになります(作文など一部を除いて)。実際私にも「相似であることを証明しろという問題が出る時点でこの二つは相似なんだろうが」などと思いながら必死に模範的と思われる答案を作っていた時代がありますが、その行為が自分の人格に影響を与えているとは1ミリも思いません(既にその時点で相当人格が歪んでいたという説もある)。

さらに言えば、大学まで含めて学校で学んだ知識がその後の人生で役に立つことは(専門的な領域に就職しない限り)ほぼないでしょう。受験に必要なだったからしぶしぶ勉強した三角関数とかはもう壊滅的に忘却の彼方ですし、やりたくて勉強したはずの労働法の知識もほとんど頭には残っていません(どこを調べたら欲しい情報が出てくるかはわかる程度)。

じゃあ受験勉強が人格の完成にどう寄与するのかと、文句の一つも言いたくなってしまうところですが、「勉強した内容そのもの」ではなく「どのように受験勉強に取り組むか」が人格形成にとって大事なことで、というのが私の意見です。「ゴールを見据えて逆算して計画を立てる」だとか、「テストや模試で自分の現在地を把握して計画を修正しつつ進めていく」だとか、「限られた時間の中で自分に必要なことを見極めて取捨選択する」だとか、受験勉強を通して得られるものは知識以外にもたくさんあります。それらは受験勉強をする必要がなくなっても役に立つ能力です。目標をどこに定め、どのようにそこに向かっていくかの道筋を考える中で、自分がどうなりたいたのか、何を大切にしたいのかがおのずと定まってきます。

何より、受験勉強は「自分がどれだけ本気になれるか」を身をもって実感する機会でもあります。明確な高い目標を持ち、数多の誘惑を断ち、時には不安になったり自信を無くしたりしながら、どれだけ歯を食いしばって頑張れるかを試せる機会はそのうち多くはありません(歯を食いしばるのは健康に良くないので、あくまで比喻表現とお考え下さいby顎関節症の松林)。「本気になる」は「腹をくくる」「覚悟を決める」とほぼ同義。これができる人は強

いです。そして、一度「本気で何かに取り組む」ことを経験した人は、自分がどこまでの負荷になら耐えられるかを知っています。これはその後の人生において大きな糧になります。

塾という環境、特にZ会には、高い志を持って頑張っている人が、少なくとも学校よりはたくさんいるはずです。本気になることを笑う人もいません。名前も知らないライバルから刺激を受けることもあるでしょう。分からないことがあるとき、不安になったときに頼れる先生もいます。私が言うと手前味噌になってしまいますが、真剣に勉強したい人にとってこれ以上の環境はなかなかないです。教室で、あるいは自習室で、本気で勉強に取り組んだ経験があなたの完成した人格の一部になるのなら、私は自分の仕事を通してそれに貢献できたことを嬉しく思います。

2点目。本科のパンフレットをお持ちの方はぜひ一番最初の見開きページをご覧くださいなのですが、先ほども述べたとおりZ会の教室は「『自ら考え、解決し、表現できる力』を養う」ことを目指しています。私はその能力を大学で身につけたと思っているのですが、それを高校受験の過程で養成しようというのです。

入試というものは、合格最低点であろうと受かってしまえばこっちのもんなので、一度の試験を突破するための小手先のテクニックを詰め込めばどうにかなってしまうこともあります。実際、そのような指導で合格実績を量産することも、やろうと思えばできるのだと思います。しかし、それは勉強の本質ではないし、高校入試は突破できても大学入試で、運よく大学入試を突破できても大学の中で、あるいは社会に出たその先で、そのやり方は絶対に行き詰ります。覚えたことを覚えたとおりに吐き出すだけでクリアできるミッションなんて、そうそうないのです。

とはいえ、限られた授業時間の中できちんと実績を上げようと思ったら詰め込むしかない…？と思われる方もいらっしゃるでしょう。ところが、葛西教室の真ん中でお仕事をされていてよく聞こえてくる言葉は「これはこうと決まっているよね。なんでそうなっているんだと思う？」「どう考えたらこの解き方に辿りつけるかな？」「自分の言葉で書いてみよう」…反射では答えられない問いが先生から投げかけられることが多々あるように思います。ただスローガンとして掲げているだけではなく、実際に授業の中で「自ら考え、解決し、表現できる力」を育てようとしているのです。授業の中だけではありません。「自ら考える」というアクションを引き出すには、まず良質な問いをたてる必要があります。テキストが良くないと、「考える」を鍛えることはできません。自分では「解決」できなかった問題を先生に質問している場面もよく見ますが、きっと先生が直接答えを教えてくれたということはあまりないはずです。その問題を解決するにはどうすればいいかの道筋を一緒に考えた、というケースが多いのではないのでしょうか。そして「表現する」ことがきちんとできているかは一人では確かめられません。言いたいことがちゃんと伝わっているかどうか、誰かに見てもらうことが必須です。先生から返ってきた赤がびっしり入ったシートやテスト、みんなきちんと復習していますよね？

「『自ら考え、解決し、表現できる力』を養う」ことは、人格を完成させるにあたり必要不可欠な項目であると思います。ここまでに、「人格を完成させるための教育は学校で行われるが、塾だってそのお手伝いくらいはできる」という論を展開してきましたが、これに関しては塾の方がむしろ直結していると言うか、もはやそのものずばりであると言えます。そして、申し訳ないですがこの指導を学校(特に公立の中学校)で行うのは至難の業です。生徒側に一定以上の学力とやる気がなければ成立しないからです。私は学生時代に個別指導の塾で講師をしていたことがあります。そもそも勉強する気がない生徒にはどんなボールを投げても返ってきません。投げ方を工夫してみたり、時には転がしてみたり、投げないでみたりしたこともありましたが、暖簾に腕押しでした。とりわけ集団を相手にする場合、自ら考えさせるためのボールを投げるには、生徒が「ある程度の球なら打ち返すだけの能力を持っている」あるいは「その能力を持ちたいと思っている」という条件がなければ授業が成り立たないのです。幸いZ会にはいい球を投げる先生方がいて、その球を打ち返せるようになりたい

と頑張る生徒さんたちが通って来てくれています。ここでの学びで得たものはきっとあなたの人格の大事な一部になります。

【あなたは、人格の完成をどこで迎えたいですか？】

最後に、こんなでっかい問いをぶん投げてこの文章を締めたいと思います。

既に述べたように、私の人格は大学生活の中でほぼ完成しました。ここから多少変動することはあっても、根幹は変わらないだろうと思います(予定は未定)。人格の完成をどこで迎えるかは、人によって様々です。私が大学で出会った友人の中に、全寮制の高校で自給自足の生活をしていた人がいました。薄い高校生活を送った私にとって大学はびっくりしちゃうほど濃いものでしたが、濃い高校生活を送った彼にとっては大学のインパクトは高校の濃さを超えるほどではなかったようで、彼の人格は高校生活の中で完成された部分が大きかったのではないかと私は勝手に思っています。自由奔放な大学生だったはずなのに久しぶりに会ったらすっかりビジネスマンみたいになっている同級生もいるし、「子どもできてから性格変わったわー」と言っている幼馴染もいます。自分の人生とは言え思い通りにはならないものなので、人格の完成のタイミングは決してコントロールできないことは分かった上で、それでもこの質問への答えを考えてみてほしいのです。

私は2度大学生をやりましたが、1つ目の大学は、当時「人格の完成」という言葉こそ知らなかったものの「ここで学べたら人間として大きく成長できる」という確信をもって選びました。今振り返ってみても大正解な選択でした。2つ目の大学については、もうそれ以上に人格を完成させる必要はないので、と言うと語弊がすごいのですがもう大学に求めるものがそれではなくなっていたので、「貯金から学費が払えて、実家から通える範囲にあって、やりたいジャンルが充実していればなんでもいい」くらいな気持ちで決めました。こちら結果としては十分に満足しています。

今から高校、大学へ進学するみなさんには、「どこで人格を完成させたいか」という観点をもって学校選びをしてほしいなと思って、この長い長い文章を書きました。学校は勉強するところですから、もちろんやりたい勉強ができる学校に行くというのが当然ですし、家から通いやすいとか、制服がかわいいとか、学校選びのポイントはいくつもあります。その中の一つに、「人格の完成」を含めてみませんか？もちろん高校や大学がその完成の場になるとは限りませんが、それでも多感な時期にどんな人と出会い、どんな環境で過ごすかはあなたの人格に多少なりとも影響を与えます。実際に学校説明会やオープンキャンパスに出向き、先生や学生とお話ししてみたり、その学校では何ができるのか調べてみたりして、自分の大事な3年間・4年間(それ以上になることもある)をどこで過ごすのが一番いいかを考えてみてください。私はみなさんに、「行ける学校」ではなく「行きたい学校」に行ってほしいのです。

行きたい学校が見つかったら、逆算して今何をすべきか考えてみましょう。過去問をばらめくってみれば、入試本番までにあなたが到達しないといけないレベルがわかるはずです。自分一人の力では太刀打ちできないことがあれば、遠慮なく塾に頼ってください。Z会も人格の完成に寄与できるとさんざん主張しましたが、それでも私たちは踏み台です。みなさんが行きたい学校に行くために使い倒してくれれば、それでいいんです。

さあ、目標は定まりましたか？みなさんはもちろん、私を含めみなさんの周りにいる大人たちも、まだ見ぬ人格の完成を目指して日々を生きています。一緒に走っていきましょう。なんだかんだがむしゃらに頑張ってしまうばかまじめなあなたと私に、幸あれ！

月	日	曜	受付	本科生スケジュール					本科生以外の方対象のイベントなど	
9	26	木		休室						
	27	金	14 ~ 22							
	28	土	14 ~ 22							
	29	日	12 ~ 20	10月度①	3V 実力テスト	3K 実力テスト	2V 月例テスト	1V 月例テスト		
	30	月	14 ~ 22							
10	1	火	14 ~ 22							
	2	水	14 ~ 22							
	3	木		休室						
	4	金	14 ~ 22							
	5	土	14 ~ 22							
	6	日	12 ~ 20	10月度②						
	7	月	14 ~ 22							
	8	火	14 ~ 22							
	9	水	14 ~ 22							
	10	木		休室						
	11	金	14 ~ 22							
	12	土	14 ~ 22							
	13	日	12 ~ 20	10月度③	10:00~12:00 3V保護者会					
	14	月	14 ~ 22		10:00~12:00 1V保護者会	13:30~16:00 3K保護者会				
	15	火	14 ~ 22							
	16	水	14 ~ 22							
	17	木		休室						
	18	金	14 ~ 22							
	19	土	14 ~ 22							
	20	日	12 ~ 20	10月度④						
	21	月	14 ~ 22							
	22	火	14 ~ 22							
	23	水	14 ~ 22							
	24	木		休室						
	25	金	14 ~ 22							
	26	土	14 ~ 22							
	27	日	12 ~ 20	11月度①	3N 休講	3V・3K 実力テスト	2V・2K 月例テスト	1V 月例テスト		
	28	月	14 ~ 22							
	29	火	14 ~ 22							
	30	水	14 ~ 22							
	31	木		休室						
11	1	金	14 ~ 22							
	2	土	14 ~ 22							
	3	日	12 ~ 20	11月度②						
	4	月	14 ~ 22		10:30~12:30 2V保護者会	14:30~16:30 2K保護者会				
	5	火	14 ~ 22							

Z会の教室

Z会進学教室 葛西教室

〒134-0084 江戸川区東葛西 6-2-3 第三須三ビル 6 階 TEL03-5878-0844

受付時間 平日 14 : 00~22 : 00 日曜日・講習中 10 : 00~20 : 00

『葛西通信』の記事（バックナンバー）は Web からご覧いただけます。

Z会 葛西

検索